

「自分はこれを大切に生きていく」と言えるものを



入学式 (令和5年4月6日)



1年大学見学 (令和5年11月10日)



1年スピーチコンテスト (令和5年12月15日)



2年丘の上フィールドワーク (令和6年4月22日)



2年春季クラスマッチ (令和6年4月25日～26日)

第78回卒業式 式辞

〇はじめに

厳しい冬の寒さも和らぎ、風越山のふもとにも暖かな春の光を感じる季節となりました。

今日のこの佳き日に、ご来賓のみなさまをはじめ、保護者、在校生のみなさんとともに、卒業証書授与式を盛大に挙行できますことを誠に嬉しく思います。

保護者のみなさま、お子様のご卒業おめでとうございます。多感で成長過程にあるお子さまとの三年間、様々なご苦労があったことと思います。今日のこの日を迎えられて、感無量のことと拝察いたします。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業は、皆さん一人ひとりの努力の賜物であるとともに、温かく愛情を注ぎ、励まし、見守ってくださった保護者の方々や、様々な面で応援していただいた地域のみなさん、先生方や事務室のみなさんの支えのお陰でもあります。感謝の気持ちを忘れないでください。

〇第78回卒業生について

第78回卒業生の皆さんは、3年前、新型コロナウイルスの感染拡大がようやく治まり、通常の高校生活が戻りつつある中、飯田風越高校に入学しました。学校の行事、部活動、校外活動が制約を受けずに行えるようになり、伸び伸びと高校生活を送った学年です。グラウンドや体育館、道場や球場では運動系クラブのみなさんの声が響き、音楽堂や美術・書道教室、家庭科教室や練習室、旧食堂では文化系クラブの演奏や作品制作の音が放課後や休日に聞こえてきました。

生徒会活動では、「創造革命」のスローガンのもと、通常の委員会活動に加えて、風越祭やクラスマッチ、コーラスコンクールなどの行事を皆で力を合わせて運営しました。今年度の風越祭はコロナ後最多の来場者数を記録しましたし、冬季の制服に関する校則の改定にも取り組んでくれました。

校外活動に積極的に参加する人たちもいました。ボランティア活動に参加したり、竹林整備などの地域貢献活動、さらに、飯田市公民館や県教育委員会による国内外への研修旅行に参加する人たちもいました。新聞記事で取りあげられたり、学校へ感謝状が送られてくることもありました。

二年次から本格的に取り組んだ探究活動も、一人ひとりの興味関心に基づいた多彩なテーマで発表がなされ、就職や進学などの進路実現に繋がった人たちも少なからずいました。



2年生徒会役員紹介（令和6年10月24日）



2年探究中間発表（令和6年10月25日）



2年修学旅行（令和6年11月5日～7日）



3年選手壮行会（令和7年5月30日）



3年風越祭（令和7年6月28～30日）



3年コーラスコンクール（令和7年7月25日）

○これから社会に出ていくみなさんへ

3年前の入学式で私は皆さんに、風越高校の校風である質実勤勉・自由闊達に加えて、次の三つのことを求めました。第一は、人との比較でなく、自分はこれを大切に生きていくと言えるものを持ってほしい。第二は、身近な人から遠く世界の人々にまで、思いやりと共感する気持ちを持ってほしい。そして第三は、異質なものの開かれた心、偶然の出会いを大切にしてほしいということでした。

成長途上で他者の評価が気になる若いみなさんにとって、第一の、人との比較でなく自分の信念を持つということは、難しい要求だったかもしれません。それは、私たち大人でさえ、常に悩み、自問自答し、人生のよりどころを求めて一生考え続けているものだからです。

しかしあらためて今日の卒業にあたって、卒業生の皆さんには、同じことを求めたいと思います。皆さんにはこれからも、様々な出会いと経験を通して、「自分はこれを大切に生きていく」ものを探し続け、持ち続けていてもらいたいと思います。なぜなら、壁にぶつかった時、心が折れそうになった時、絶望しそうになったときに、自分を支える力となるものは、人がどう思うかではなく、「自分は何を大切にするか」だからです。

昨年は戦後80年。茨木のりこさんの「自分の感受性くらい」という詩がよく取りあげられました。自分の感情や感性は自分で守れという力強いメッセージが込められた詩ですが、これは、戦争中、あらゆるものが国のためとして否定され、踏みにじられ、それに服従してしまった作者自身の反省から生まれた詩だそうです。

皆さんには、素直で優しい気持ち、豊かな感受性が備わっています。同じものを見ても、同じ経験をしてそこから感じ、学びとることは人それぞれで、それがみなさんのかけがえのない個性だと思います。ぜひ、自分の大切にしたいものをしっかりと持ちながら、これから先の人生を力強く切り拓いてほしいと思います。

○おわりに

飯田風越高校は、これまでに3万6千人を超える同窓生を輩出し、その方々は飯田下伊那を中心に、地域の経済や教育、福祉、文化・芸術を支えるとともに、広く国内外で活躍しています。これから地元を離れる人も、残る人も、ふるさとして飯田風越高校を大切に思い、それぞれの場所で同窓生に会ったら、風越高校のことを語り合える仲間であってほしいと思います。そして今度は、母校の飯田風越高校を応援する立場になってください。

皆さんのこの三年間の高校生活の努力をたたえとともに、皆さんの限りない将来に大いに期待して式辞といたします。

令和8年3月3日 飯田風越高等学校長 下井一志